



鏡石町長 遠藤 栄作

「新たな飛躍」へのまちづくり

あけましておめでとうございます。
町民の皆様には、新春を健やかに迎えのこととお慶び申し上げます。
東日本大震災からまもなく8年が経過しようとしております。原子力災害対策事業もほぼ完了し、復旧復興事業も一段落となりましたが、県内の状況を見ますとまだまだ復興途上にあることから、一刻も早い復興を願うものであります。

また、本県の大きな課題である風評被害の払拭には未だ至っておりません。私たちみんなの力でご理解をいただけるよう努力を積み重ねることが必要ではないかと思っております。

今年、本町の5つの行政分野別目標に掲げた「第5次総合計画」が目標年次まで3年となることから、まちづくりの目標でもある「新たな飛躍」に向けた基本目標について、しっかりと取り組んで参りたいと思っております。

具体的には、地方創生と人口減少対策としての「子育て支援対策」の充実、安心・安全の中で子どもから高齢者までが「笑顔と健康」で暮らせるまちづくりの拠点となる「(仮称)健康福祉センター」の具体化、そして水の安定供給体制の強化を図る第5次上水道事業を着実に進めなければなりません。

そして、これまで取り組んで参りました「駅東第1土地区画整理事業」第1工区については、着々と住宅の建築が進められ、新たな住宅地域が形成されています。今後は第3工区の推進を進めて参りますので、町民の皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げます。

特に本町は、JR東北本線・東北自動車道・国道4号線と交通の利便性が高く、平坦で住みやすくコンパクトな町です。その特性を生かした、子どもから高齢者までが元気に繋がる取組を推進して参りたいと思っております。

最後に、5月には元号も変わり、平成から新しい時代のスタートとなります。各種事業にも年度毎に目標を掲げ、田んぼアート、オランダ秋祭りなど、「新たな飛躍へのまちづくり」に取り組んで参ります。今後とも格別なるお力添えをいただきますようお願い申し上げますとともに、本年が皆様にとってよい年となるよう祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。



鏡石町議会議長 渡辺 定己

「開かれた議会、信頼される議会」を目指して

謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

町民の皆様にはつつがなく新しい年をお迎えのことと心より、お慶び申し上げます。
平素から議会活動には、多大なるご支援、ご協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

さて、東日本大震災から8回目のお正月を迎え、震災からの復旧事業が完了し、今後は「笑顔あふれるまちづくり」の実現に向けて、町民の多様なニーズに対応した事業を展開する見通しとなりましたが、福島原発事故による放射能問題に関しては、未だに風評被害が払拭されず、地域ブランドイメージの回復に至っておりません。

しかしながら、震災後のシンドルの事業として始めました「田んぼアート」事業も7年目を迎え、観客数が昨年から3万人を超えるようになるなど、進化へ確実な歩みを実感できておりますことは、喜ばしい限りであります。

そのような状況の中、地方創生拠点整備交付金事業を活用し、JR鏡石駅の町コミュニティセンターを町の観光・交流拠点として、賑わいの創出、地域コミュニティの活性化を目的に改修が進められています。また、昨年5月に鏡石まちの駅「かんかんてらす」としてオープンいたしました。飲食スペースの設置、農産物や特産品の販売、6次化商品開発などにより、今後、町民の皆様はもちろん、町外からも多くの方に利用いただき、親しまれる施設となることを期待しております。また、駅東土地区画整理事業の第1工区を分譲し、現在好調な売れ行きを見せており、一般住宅やアパートなども次々に建築されてきていることから、第3工区の早期整備にも期待するものであります。

議会といたしましては、町民にわかりやすい政治、より開かれた議会、信頼される議会を目指し、地方議会として今後の議会のあるべき方向性を探り、議会機能のさらなる充実と強化を図るため、議会基本条例を制定しましたが、今後も町民の皆様との連携を一層密にし、町政の発展のため、さらに努力して参る所存であります。

年頭に当たり、町民の皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げますとともに、今年もより一層のご支援を、お願い申し上げます。

